

鷹取山自然観察会会報

2017.6.4 NO.16

鷹取山の植物相調査結果 —2016 年調査—

鷹取山は三浦半島北部に位置しており、神武寺から繋がる自然豊かな場所として、神奈川県生物多様性ホットスポットに選定された場所である。鷹取山自然観察会では2013年11月から会員有志で植物相調査を開始した。調査結果については2015年12月までの結果は会報12号で報告した。今回は、前回の結果を含めて2016年12月までの調査について報告する。

1. 調査方法

2016年2月に鷹取山が環境省自然環境局生物多様性センターよりモニタリングサイト1000里地調査の一般サイトに登録された。これにより、調査は環境省自然環境局及び日本自然保護協会における「モニタリングサイト1000里地調査（モニ1000里地調査）マニュアル」により行った。

植物相の調査にはさまざまな方法があるが、モニ1000里地調査では自然観察会のように定められたルートを定期的に歩いて植物の種名を記録する「トランセクト法」で行っている。この方法は、「高い精度で調査を行うことよりも、同じ精度で継続的に植物相を記録すること」を第一に優先している。モニ1000調査マニュアルでは、木本及びシダ類、イネ科、カヤツリグサ科は除いてもよいとなっているが、ここでは維管束植物のすべてについて調

表1 調査区間の植生など特徴

区間	植生など特徴	距離
A	鷹取山公園落葉広葉樹林、一部草地も含む	540m
B	市街地の舗装道路及び公園	600m
C	シイ、カシ等常緑広葉樹林、一部桜並木含む	1300m
D	コナラ、オオシマザクラ等落葉樹林	270m
E	スギ林縁部（逗子沼間自然環境保全地域境界）	540m
F	畑地及び林縁	230m

査することとした。シダ類については6、10月の2回調査した。調査は調査ルート3.5kmを植生の違う6区間に分け調査した。各区間の植生の特徴は表1に記載したとおりである。

種名は木本類、草本類に分け全員で確認の上記載することとした。記載の方法は、原則として蕾、花、実の状態を記載した。種が不明なものについては標本を採取し後日博物館で同定・確認した。

2. 調査結果

(1). 区間別の特徴

前回の結果（2015年12月まで）では維管束植物610種が確認され、木本56科183種、草本57科379種、シダ植物16科48種であった。

今回は前回の種も含めて631種が確認され、木本61科188種、草本58科394種、シダ植物16科49種であった。前回より種数が多いのは調査を重ねることにより見逃しが少なくなり追加された種数が増えたためである。

表2 区間ごとに観察した種の数

区分	A区間	B区間	C区間	D区間	E区間	F区間	合計
草本類	257	200	182	140	125	143	394
木本類	120	57	97	83	75	65	188
シダ類	29	15	26	26	12	18	49
合計	406	272	305	249	212	226	631

注）合計は、全区間の種の合計です。

区間別の調査結果は表 2 のとおりである。区間別にその特徴をみると、A 区間は鷹取山公園を中心とした場所であり、カラスザンショウ、アカメガシワ、コナラ、クヌギ、オオシマザクラ、ミズキ、イヌシデ、ケヤキ、ムクノキなどの落葉広葉樹とスダジイ、タブノキ、

アカガシ、ウラジロガシ、シロダモ、ヤブニッケイ等の常緑広葉樹もまばらにみられた。

また、ヤマグワ、タマアジサイ、シバヤナギ、キハギ、ヤマツツジ、ハコネウツギ、ヒメウツギ、マルバウツギ、コゴメウツギなどの中低木も多くみられた。草本類では展望台付近にセンボンヤリの群落、岩場にはケイワタバコの群落が見られた。ケイワタバコは横須賀市内では貴重な種でもあるが、しばしば盗掘にあい保全策が必要と考えられる。

B 区間は市街地と子供のための公園がある場所である。住宅地内は人工的な環境であり路傍雑草などを中心としてアブラナ科、アカバナ科、キク科、イネ科などの外来種が多く確認された。区間内には鷹取小学校の石垣にトラノオシダ、イワカタヒバなどのシダ類、コモチマンネングサなどのベンケイソウ科、コバノタツナミソウ、シンテッポウユリなどが年間を通じて見られた。

C 区間はアカガシ、スダジイ、ウラジロガシなどの常緑広葉樹が中心であるため、他の区間と植生の違いがみられた。このため冬でも暗い森であり、林内は下草が少ない場所でもある。この地域では蔓性のクマヤナギ、クロモジ、ヤマコウバシ、ハナйкаダ、ミヤマシキミなどの中低木もみられた。草本類ではキッコウハグマ、ツルカノコソウ、ヤマネコノメソウなど、この区間でしか見られないものも数多くあった。

C 区間の一部で昨年 8 月下旬から今年 3 月末まで東電の鉄塔補修工事中でレール等が引かれた。レール設置に伴いコナラ、スダジイなどが伐採され、暗い森に日が入りこみ、植生の変化があると思われる。今後調査により確認していきたい。

D 区間ではクヌギ、コナラ、オオシマザクラ、ニガキなどの落葉広葉樹が多く、下草としての草本類は豊かであった。この区間は、在来種の比率が一



番高い区間であり、ツクバトリカブト、ホタルカズラ、ヤマハッカ、タムラソウなど昔からの植物相が残っている地域である。

E 区間は逗子沼間の保安林及び自然環境保全地域に指定された林縁である。林内には、スギ、ヒノキ、シロダモ、アオキ、ヤツデ等の常緑樹や、低木としてムラサキシキブ、カマツカ、ガマズミ、ツクバネウツギなどの落葉樹も普通に見られた。

F 区間は畑地がある場所でもあり、畑地沿いには、ニラ、ノビル、ヒメウズ、ヒガンバナ、オオジシバリなど草地や土手などに生える草本類が多く見られた。

(2) 帰化植物

調査区間の自然度を見るため草本類について帰化植物と在来種の分布割合を調べた。帰化植物とは、外国原産の植物で、牧草用や鑑賞用として輸入されたものが野生化して各地に広まっていった植物である。一方、日本に古来から生育している種は在来種といわれている。

また、逸出種という栽培種が野生に入り込むものがあり、逸出種も帰化植物に入れた。逸出種にはオシロイバナ、ヒルザキツキミソウ、ムラサキカタバミなど園芸種などから野生化したものが多い。帰化植物・逸出種の区分は横須賀市自然・人文博物館編「三浦半島の野生植物」によった。

一般的に都市化されてくると帰化植物が入り込み在来種の生息域を狭めてくることが知られてい

る。今回、区間ごとの帰化率は図のとおりであり区間ごとの特徴を見ることができた。

B区間は住宅地の道沿いと広場などであり、帰化率が高くなっていった。一方、DE区間は在来種の割合が高く、帰化植物が少なくなっていた。A区間は鷹取山公園内であり、人の出入りも多く、開けた草地があるためイネ科、キク科等の帰化植物が多かった。

また、人により持ち込まれた園芸種が年々増加傾向にあるため、ルールが必要と思う。

図1 帰化植物と在来種の割合



帰化率 (%) = (帰化植物の種数 / 出現した全植物の種数) × 100 とする。

(3). 貴重種

今回の調査では 600 種を超える種が確認されたが、多くの種が株数も少なく絶滅に近い状態にある。以前はエビネ、キンラン、ギンランなどラン科植物はこの地域では普通に見られたと聞いているが、現在では人の目につくところでは生えていない。

特に数が少ない種を挙げると次のとおりである。草本類ではヨツバムグラ、イチヤクソウ、オオカモメヅル、コバノカモメヅル、カガイモ、ツリガネニンジン、ヤマホタルブクロ、カシワバハグマ、キクアザミ、タムラソウ、ヒメガンクビソウ、ニオイタチツボスミレ、タカトウダイ、ワレモコウ、ハダカハウズキ、クルマバナ、アマドコロ、エビネ、

キンラン、ギンラン、タシロラン、アカショウマ、イワギボウシなどである。ヤマラッキョウ、ナンバンギセル、マヤラン、ヤマニガナなどはここ数年見られない。

木本類ではムベ、クロモジ、ヤマコウバシ、リュウキュウマメガキ、ハチジョウウクサイチゴ、ウラジロマタタビ、ミヤマシキミ、メギ、イワガラミ、タラノキ、ムクロジ、コバノガマズミ、クサボケ、調査区域ではないがカゴノキなどは株数が少ない。

草本類や低木は、過度の草刈りや伐採にあつて数を減らしている。鷹取山周辺の緑地は鷹取山公園、横須賀市都市林、

沼間の自然環境保全地域などがあるが、民地も多く貴重種の保全は難しい課題と考えられる。

4. その他

三浦半島における植物相調査は、神奈川県植物誌会や市の植物相調査が行われているが鷹取山周辺については通年の調査などは行われていない。2016 年 4 月には鷹取山がモニタリングサイト 1000 里地調査に登録され、今後モニタリング 1000 里地調査により

継続的に行っていくことになった。

調査の同定では横須賀市自然・人文博物館の山本薫学芸員には快く指導していただいたことを感謝します。

別表に草本、木本、シダ類と確認した種を掲載したが植物の分類は昨年までのエングラーク分類から A P G 分類体系に変更した。

当会では、今後も植物相調査を毎月第 2 金曜日に行っていく予定である。観察することにより、絶滅していく種やこの地域で新たに見つかる種もあるかもしれない。調査することは楽しみでもあり、続けることでこの地域の植物相がはっきりしてくると思う。

調査に参加した人（2016年1月～12月まで）

本多久男、小池順子、中村紀雄、金子龍次、高橋和子、島村健二、郡司久、三科清高、渡邊眞章、大内

洋子、竹之下香苗、原秀子、高田静子、村上良二、市川實、竹之下香苗（順不同、敬称略）

総会の開催について（報告）

鷹取山自然観察会では5月14日の自然観察会終了後に総会を開催しました。昨年度の会計報告と今年度の事業計画について説明しました。

昨年度に続き今年度も横須賀市市民協働推進補助金を頂き事業を行います。

今年度の事業は昨年度とほぼ同様な計画で植物相調査、蝶類調査などを行うこととしました。事業計画は次のとおりです。

また、6月から予算の都合から自然観察会の参加費を会員100円、非会員200円に変更することとしました。

平成29年度事業計画

平成29年度は横須賀市市民協働推進補助金「鷹取山自然観察の里山づくり」として補助金の交付を受け事業を行います。

1. 自然観察会の開催

(1) 定期的な自然観察会の開催

実施時期 毎月第2日曜日（別紙予定表の通り）

(2) 自治会向け観察会の開催

湘南鷹取自治会、浜見台自治会、その他

2. 植物相調査など生き物調査

鷹取山周辺の植物相及び蝶、野鳥について調査ルート歩き、記録する。28年度から環境省のモニタリングサイト1000里地調査により行う。

実施時期 (1) 植物相調査 第2金曜日

(2) 蝶類調査 4月～11月の間 第1、3金曜日

(3) 野鳥調査 12月～5月の間 第1、3金曜日

(4) セミの抜け 7、8月の第4金曜日
抜け殻調査

3. 樹木板の設置

鷹取山公園を中心に平成25年から樹木板を設置している。今年度も40枚程度掛け替えを行う。

実施時期 28年6月30日金曜日

4. 巣箱の掛け替え

平成25年から野鳥の保護と野鳥観察を目的として巣箱掛けを行ってきた。現在約20個の巣箱が掛かっており、その掛け替え作業をする。

実施時期 28年11月24日金曜日

5. 掲示板、会報の発行、ホームページによる情報発信

会報を年4回発行し、会員の他、横須賀市など関係機関に送付する。

また、鷹取山公園に市が設置した掲示板を活用し、季節の花だより、山で見られる蝶、野鳥、ドングリ、樹木マップなどポスターを作成して掲示する。

実施時期 (1) 会報 6月、9月、12月、3月

(2) 掲示板 毎月更新

6. 自然観察ガイドの作成

季節ごとに変化する自然観察のポイントを解説した冊子（36ページ程度）を作成する。冊子の作成に当たってはこれまでの観察会の資料、掲示板による自然情報を編集して作成する。冊子を活用して観察会で活用する。自然観察ガイドは秋～冬編を作成する。

実施時期 9月頃作成

7. 鷹取山公園の利用について

(1) 貴重種の保護を目的とした看板、柵の設置

(2) ビオトープ、貴重植物の保全



自然観察の里山づくりのための鷹取山公園等の利用について（報告）

当会では、平成23年から鷹取山公園を中心に活動しています。鷹取山の自然環境の保全のため、生き物の生息環境を保全していく取り組みが必要だと感じており、

鷹取山公園を管理している横須賀市環境政策部公園管理課及び自然環境共生課と協議してきました。その結果、今年度から次のように鷹取山公園等を自然観察の里山づ

くりの場として利用させていただくことになりましたので報告します。

1 目的

鷹取山自然観察会の活動は、子供から大人まで地域住民に鷹取山の自然環境の大切さを認識してもらうため、自然保護活動と呼びかけ、自然観察の里山づくりを目指していくものです。そのために、自然観察会の開催、樹木の名札かけ、野鳥の巣箱づくり、自然観察ガイドの作成、鷹取山の生きもの調査などの活動を行い、鷹取山の自然保護を行います。また、ケイワタバコなど貴重な植物相の保全を行っていきます。

鷹取山自然観察会では「樹を切らない、植物を持ち込まない、植物を採らない」を「鷹取山のモットー」として掲げています。（会報第1号参照）

2 利用の範囲

鷹取山公園

湘南鷹取2丁目都市林

湘南鷹取3丁目都市林

湘南鷹取4丁目都市林

3 鷹取山公園等での自然観察の里山づくり活動

1の目的を達成するため次の活動を行います。

- (1) 鷹取山周辺での自然観察活動
- (2) 植物相調査、野鳥調査、蝶類調査
- (3) 巣箱、樹木板の設置

アオキについて

会報4号で「鷹取山の自然保護～山の草木は誰のもの～」で樹木の伐採について問題提起しましたが、最近鷹取山への山道沿いのアオキが大量に伐採され刈られた木々が放置されたままでした。見た目も悪く放置されたままでは下草も生えないことから会員4名により片付け作業を行いました。なぜアオキは伐採されるのでしょうか。鷹取山の山道沿いには様々な低木が見られます。ウグイスカグラ、ガマズミ、イボタノキ、カマツカなど落葉樹が多く見られます。一方、常緑の低木となるとアオキ、ヤツデが代表であり、そのアオキが目玉にされています。

1 アオキについて

アオキはミズキ科アオキ属（APG分類ではガリア科）の常緑低木であり、鷹取山では普通に見られます。丹沢など鹿が増えている地域ではアオキが食害に合っていると見られないような地域もあります。ニホンジカの分布をアオキの食痕により調査する方法もあるようでアオキがニホンジカの繁殖場所の指標にもなるようです。アオ

- (4) 掲示板による季節の自然情報の発信
- (5) 貴重種の保護を目的とした看板、柵の設置
- (6) 貴重種の保全を目的とした植物相の調整
- (7) その他、自然観察の里山づくりに資する活動

4 活動する者

鷹取山公園で活動する者は鷹取山自然観察会の会員であって、腕章などにより会員であることを明示します。

5 事故防止と安全性の確保

鷹取山公園内で活動する者はボランティア保険に加入し、万一の事故が発生した場合は自己責任とします。

6 情報提供

生き物調査の結果及び活動の概要は、毎年1回横須賀市環境政策部公園管理課及び自然環境共生課へ報告します。

7 管理棟の使用

清掃活動に伴う機材の保管のため管理棟の使用の許可をお願いします。

8 看板の設置 貴重種の保護のため別案の看板を横須賀市と連名で設置します。

9 前記各条項について市から求められたとき、鷹取山自然観察会は直ちに協議に応じます。

以上のことについて横須賀市から承認を頂きましたが、上記事項を必ず順守するよう申し受けました。



写真 アオキの伐採痕

キは雌雄異株で雌株と雄株が別株であり、江戸時代に日本に来たドイツ人ケンペルは、常緑樹に赤い実のついた植物に、いたく感動したらしく、ヨーロッパに持ち帰ったところ赤い実がならなかった。持ち帰ったのは赤い実のついた雌株のみで雄株をもっていかなかったとの逸話が残っています。ヨーロッパでは今でも珍重されているそうです。



2 アオキは増えているか

鷹取山ではアオキは増えているのか。鷹取山の植生変化はデータがないので 20～30 年前の状況はわからない。一方、シュロ、アズマネザサは一見して明らかに増えています。アオキはシイ、カシ、タブなどの照葉樹林やエノキ、ムクノキなどの落葉広葉樹の低木層としても生育しています。また、アオキは日陰でも実生から育つ陰樹のため、競争相手も少ない。植物相の遷移を見ると、土地がかく乱されて最初に現れるのはクサギ、カラスザンショウ、ミズキ、アカメガシワ、ヌルデなど陽樹と呼ばれる木々です。シイノキ、タブノキ、カシ類などの陰樹と呼ばれる照葉樹林は遷移が進んでくると森が形成され、同時に日陰が出来て安定した条件がそろくとアオキも入ってくると想像されます。

3 アオキの刈込の利点・欠点

アオキは日陰を好み、林道沿いには多く見られます。アオキが群生する場所では林床に日が入らず下草は貧弱でヤブラン、ジャノヒゲなど草本や日陰に強いシダ類が目立ちます。そのため山野草愛好家の方はアオキを毛嫌いする傾向にあります。また、人にとってアオキが繁茂すると山が暗くなり、見通しが悪くなるということから刈込が行われるようです。

一方、アオキの実は餌のない冬にヒヨドリ、シロハラ、アカハラなど大型ツグミ類にとって食料となっています。常緑で冬でも緑が多いため動物の隠れ家ともなります。従って、アオキを伐採することで生き物の生息場所の減少が懸念されます。

多くの人が入る里山の環境をどのように守っていくのかは難しい課題があります。

土地の所有者がだれであるか。保全のための理念があるか。保全するための人材がいるのか。などなど里山の保全を継続的に進めていくためには費用、人材の確保が必要です。

鷹取山自然観察会がどのように鷹取山の自然を保全するのかを議論していくことがよいと考えています。

アオキの伐採については下表の利点と欠点が考えられます。

アズマネザサも同様に利点、欠点があると思います。笹類はジャノメチヨウ類の食草で、鷹取山では多くのジャノメチヨウ類が観察されます。

以上感じたことを書きましたが、人を中心に人が楽しむ里山にするか、鳥などが生息できる環境を配慮した里山とするかのどちらを選択するかで森の保全する方向が違ってきます。
(本多久男)

利点	欠点
1. 森が明るくなり下草が多くなる可能性がある。 2. 人にとって見た目の良い綺麗な草地となる。	1. アオキが少なくなると鳥の餌が少なくなる。 2. アオキを切ると動物の隠れ家が少なくなる。昆虫などの食草としての利用が出来なくなる。 3. 斜面の木が少なくなり、土留の機能が低下する。 4. 植生が変化して、外来種などが入りやすい。

詰め物が運ぶ文化シロツメクサ

鷹取山山頂の広場にシロツメクサが広がって咲いています。以前は公園や空き地などにシロツメクサの花が咲いていると、子供たちが群れて転がりながら遊んだり、編んで冠を作る姿をよく見たものです。みんなで編んだ物をつなげて縄跳びをして遊んだりもしていました。また、四葉のクローバーを探すのも楽しい遊びでした。残念ながら鷹取山山頂の

広場では、シロツメクサで遊んでいる姿を見ることができませんでした。それはそんなことに子供が興味を示さないのか、親が教えないので編み方や遊び方を知らないのか、少し寂しい気がします。

シロツメクサは「白詰め草」で、1846 年オランダから献上されたガラス製品の梱包に緩衝材として詰められていたことから由来しています。1859 年日米通商条約締結後、西洋文明が輸入されます。当時の

舶来品のうち、石油ランプが最高額を記録しています。明治になり、文明開化の近代建築には板ガラスが多用され、当時板ガラスの増産が確立していたフランスから多く輸入されています。当然それらのガラス製品にはシロツメクサが詰められていて、使い終わったものは捨てられ、そこから今のシロツメクサは野生化したのでしょう。牧草用に栽培もされていますので、そこからも野生化して広がって行ったことでしょう。

当時の日本から輸出された物は、絹製品はもちろん、有田焼などの陶磁器でした。割れ物であるため緩衝材が必要で、当時どこにでもあった浮世絵の紙が使われました。そうして大量にフランスに渡りましたが、最初に絵として価値を認められたのは『北斎漫画』でした。1856年画家のフェリックス・ブラックモンが発見して広がり、フランスを中心に、西欧にジャポニズム文化が起きました。モネやゴッホなどの絵画をはじめ建築や装飾品に日本ブーム広がったことはいうまでもありません。

シロツメクサは別名クローバーで、四つ葉のクローバーは、幸運をもたらすと言います。40年以上前のこと、子供達をつれて、学校の周りの空き地（そこは防塵対策で一面にクローバーが植えてありました）へ遊びに行くと、ある子がすぐに3枚4枚の四つ葉のクローバーを見つけました、ほかの子がまだ誰も見つけていないのに。別の日に行っても、また同じように見つけるのです。その子からたくさんの四つ葉のクローバーのコレク

ションと、5葉、6葉をも見せてもらいました。その後会っていないのでわかりませんが、今は素晴らしい幸運をつかみ幸せに暮らしているに違いありません。ちなみに、少し前は18枚葉が最高であったと思いますが、現在は56枚葉のクローバーが最多としてギネスブックに登録されています。

柔道が日本より盛んであるとか、大統領が相撲好きであるとか、フランスが親日的であるのは、詰められていた浮世絵が運んだ日本の文化を現在まで伝えているからなのでしょう。日本でもシロツメクサに包まれて大切に運ばれた西欧文化が現在まで伝わり生き続けています。これからもシロツメクサで遊ぶという文化をも大切に伝えていきたいものです。もしかしたら、子供たちは四葉のクローバーを見つけ、それがもとで幸運をつかみ、幸せになる人がたくさん出るかもしれません。（市川寛）



この時期ならではの植物

鷹取山の6月はホタルブクロの花がコースの途中で見られます。ホタルブクロはキキョウ科の多年草で釣鐘形の花を数個つけます。花の色は白～赤紫色などで花の内側は斑点があり毛が密生しています。

匍匐枝で増殖するので1ヶ所で群生を見ることが出来ます。全体に毛が多く、葉は互生し茎を抱きます。萼は5裂し、萼片の間に反り返った付属体があります。ヤマホタルブクロにはこの付属体がなく、萼片の間が膨らんでいます。

雄性先熟で、つぼみのときに雄しべ5本は花粉を出し毛の多い花柱に花粉をへばりつけます。花柱が伸び、雄しべの葯から花粉を出し切ると雄しべは萎れてしまいます。やがて花柱の先が3つに割れ柱頭が露出します。

ホタルブクロは匍匐枝で増えるだけではなく、果実でも増えます。コーンを逆さまにしたような果実は中に多くの種子があり、果実の外皮が枯れレース状になって隙間から少しずつ種子を散布します。

ホタルブクロは、昔子どもがホタルを捕まえこの花に入れて遊んだといわれていますが、いまいちピンときません。

オニシバリは、ジンチョウゲ科の常緑小低木です。樹皮が強く、枝が折れにくいので鬼を縛っても切れないという意味でつけられました。別名のナツボウズは、夏に一旦落葉することからこう呼ばれています。2月頃、黄緑色の4裂した1cmばかりの花を数個葉腋につけます。雌雄異株なのでよく見ると雄花は葯が黄色くなっています。

6月頃のオニシバリは、葉もなくなり1cmほどの真っ赤な楕円形の実をつけます。花より実のほうが目立ちます。真っ赤な液果はおいしそうに見えますが有毒です。オニシバリはコースに点在しています。

ヤブコウジはサクラソウ科の常緑小低木で鷹取山には多く自生しています。冬には5mmほどの赤い実をつけます。地下茎が分枝して這うので群生しています。地下茎から直立し茎の先に長楕円形の光沢のある葉を輪生します。

6月頃茎頂の葉腋から数個の花がぶら下がるように咲きます。

ヤブコウジは別名ジュウリョウ（十両）といい、センリョウ（千両）・マンリョウ（万両）・カラタチバナ

(百両)・アリドオシ(1両)などいずれも冬に赤い実のなる樹木で、縁起物の植物とされています。

ヤブコウジはコース全域にあり、花も咲くのですが樹高が低く葉の陰に隠れるように咲くのでかんで見なければ花があるのに気づきません。

ムラサキシキブも多く、秋の紫色の実美しく花も趣があります。シソ科の落葉低木で、新しい枝には星状毛、腺点があり、葉は対生し先が尖ります。葉はほとんど無毛ですが葉の裏には腺点があります。葉の基部に紫色の先が4つに裂けた筒型の花を多くつけます。雄しべ雌しべは花冠から突き出ます。

海岸型のオオムラサキシキブは、葉も厚く大きく、花序也大振りです。

また鷹取山にはヤブムラサキもあり、葉は毛が多くふかふかしています。花は葉の下につき、ムラサキシキブよりやや大きいです。

なぜムラサキシキブという名がついたのか、由来は諸説あります。

園芸栽培が盛んな江戸時代の植木職人が紫式部をイメージして名づけたとか、敷き詰められたようになる状態を“しきみ”といい、“むらさきしきみ”が訛ってムラサキシキブになったと言われています。

6月の蒸し暑い時期ですが、コースにはこの時期ならではの花も多く咲いています。(小池 順子)



ホタルブクロ



オニシバリの実



ホタルブクロ



ヤブコウジ



ムラサキシキブ

鷹取山自然観察会 (ホームページを見て下さい)

HP : 鷹取山自然観察会 (旧 鷹取山の花と樹)

<http://takatoriyama.eco.coocan.jp/>

連絡先 : 世話人代表 : 本多久男 e-mail : takatori_0721@nifty.com